

震災・原発問題の陰ですすむ、
日米軍事同盟・海外派兵強化・改憲の企みに歯止めを!

第35回全道基地問題交流集会in千歳

2011年11月12日(土)午後1時30分～13日(日)午後5時 「千歳市民文化センター」

帯広平和委員会事務局長 藤岡博史
帯広原水協事務局長 竹腰三男

はじめに

今年の帯広・十勝での、平和を守り前進させる取り組みは、例年と違うものになった。第1は「浜大樹上陸訓練」が行なわれなかったこと、第2は「戦車の公道使用訓練」も行なわれなかったことである。

そのこと以外は例年通り、「有事法制反対十勝連絡会」など民主団体と一緒に、様々な活動に取り組んできた。「民有地での自衛隊パラシュート降下訓練」反対、「2・11 市民集会」、「5・3 みんなで憲法を読む会」、「原水爆禁止国民平和大行進・十勝網の目行動」、「原水禁世界大会代表派遣」、「核兵器全面禁止のアピール」署名、「6・23 集会」、「9・4 小森陽一講演」、そして「10・21 集会」など。いくつかの十勝・帯広での軍事訓練などについて報告する。

① 「パラシュート降下訓練」

※「北海道道平和委員会」への報告原稿から

4年連続4度目のパラシュート降下訓練 民有地と公有地で

陸自第1空挺団(千葉県習志野市)は、十勝管内鹿追町の乳牛育成牧場と芽室町私有地で落下傘降下訓練を強行しました。2008年から毎年実施。今年の降下訓練は、団員約150人が参加し、鹿追町では1月14日と30日、芽室町では17日から22日まで予定されましたが、悪天候などのため、4日間ほどになりました。



帯広平和委員会も加盟する「有事法制反対十勝連絡会」は、1月11日に陸自第5旅団を通じて、演習場以外の土地での訓練の中止を要請。22日に抗議・監視行動を行ないました。



氷点下10℃以下という寒さの中、17人が参加。午前9時過ぎ、上空約340mの2機のUH-1Hヘリから3～4人ずつ計35人が私有地の小麦畑に降下訓練。その度に本部から赤い煙が上りました。「白銀の大地を戦場にするな!」「北の大地での戦争訓練やめよ!」などの横断幕を掲げて、抗議しました。また、30日には、「鹿追町乳牛育成牧場」でも、降下訓練を実施。C1輸送機2機から10人ずつ計72人が降下した。

陸上自衛隊第一空挺団(司令部・千葉県船橋市)は、2008年に鹿追町(町営牧場)、2009年と2010年芽室町(民有地)で「北方積雪地訓練」を実施した。当時の新聞報道によると、第一空挺団は民有地に降下する訓練について、「帯広駐屯地内では、適当な広さが確保できない。民有地は自然に近い環境で訓練ができる。」と説明し

ている。しかし、鹿追町には「然別演習場」(中演習場)があり、十分な広さが確保出来、自然に近い山裾にある。敢えて町有地や民有地で降下訓練するねらいは、慣熟作戦である。演習場以外で訓練することに町民・国民を慣れさせるねらいである。

2009年の降下訓練では、降下しようとした隊員がヘリコプターの部品に引っ掛かり、数十分吊り下げられた状態が続くというトラブルが発生した。抗議もあり、直ちに訓練を中止した。2010年の降下訓練は、鹿追町営牧場と芽室町民有地の両方を使用した。今年も天候の状況によって両方を使用する計画だった。

今後とも、粘り強く反対運動を続けたい。(写真は芽室町/帯労連平沢氏提供)

② 「浜大樹上陸訓練」

※【十勝毎日新聞】6月10日(月)「大樹の陸自揚陸 震災派遣で中止」

「例年7月に大樹町浜大樹の太平洋岸で行なわれている陸上自衛隊の揚陸訓練は今年、中止となった。第5旅団(司令部帯広)によると、訓練は7月8日～12日の予定だったが、参加を予定していた東北方面隊が東日本大震災の災害派遣で出動しているため。」

7月6日(月)「十勝毎日新聞」は、大樹自衛隊協力会総会の記事の中で、「今年度は、例年町内で行なわれている陸上自衛隊の揚陸訓練の中止に伴い、見学会を行なわないことを決めた」と書いていました。

※ 昨年からの報告から

1977年5月「他方面区演習」として旭浜で始まり、1984年まで6回上陸訓練が行なわれた。1984年からは定置網への支障を避けて7月に。1985年からは「漁港修築工事」のために場所を浜大樹に。86年からは「北方機動特別演習」や「特科転地演習」として2004年まで行なわれた。1987年12月、防衛庁が大樹町有地を買収して「上陸訓練場」を新設。1998年からはそれまでのLSTから、新造大型輸送艦「おおすみ」や「しもきた」「くにさき」などが使用されている。それまでのLSTによる時間のかかる上陸訓練から、LCACによる素早い訓練へと変貌をとげた。2002年には初めてヘリによる降下訓練が行なわれ、2004年の訓練は「揚搭訓練」(陸から海へ)。2005年からは従来の北方機動特別演習を「北方転地訓練」と呼び、新たに「南方転地訓練」を開始。南方転地訓練では、東富士演習場などの都市型訓練施設でゲリラ・コマンド訓練が行なわれている。途中、1991年には、「雲仙普賢岳」噴火のため、演習発表(東北方面隊)後に中止された。

現在まで浜大樹に上陸した部隊は、東部方面隊5回(77/84/92/96/02)、中部方面隊14回(78/83/87/89//90/95/97/98/00/01/05/06/09/10)、東北方面隊4回(82/85/99/04)、西部方面隊6回(80/86/88/93/03/07)。

2001年、2002年、2003年には矢臼別への移動に、民間空港である帯広空港を戦闘服・制服・迷彩服・私服で利用した。2007年「南方転地訓練」に初めて十勝港(広尾町)を使用した。

③ 「戦車公道自走訓練」

第5旅団は今年ついに、6年連続して続けてきた「戦車での公道自走訓練」を取りやめた。理由は、トレーラー借上げの費用が準備出来たからである。今まで第5旅団は、公道を走行することについて、「運搬用トレーラーが不足」(2005)、「効率的」(2006)、「戦車をトレー

ラーに載せて運ぶには分解が必要なため効率性を考えた」(2007)、「トレーラーが足りない」(2008)と理由を述べてきた。要は、お金を工面すれば自走訓練をしなくて良いのだ。

※ 【十勝毎日新聞】8月22日(月) 「陸自5旅団式典 戦車自走させず」

陸上自衛隊第5旅団(司令部帯広)は毎年秋の旅団創立・駐屯地創立記念行事で使用する戦車の一部を、鹿追駐屯地から帯広駐屯地まで公道を自走して運んでいたが、今年は自走せずすべてトレーラーで輸送することが分かった。公道自走に対しては、市民団体が騒音や交通安全上の問題、道路破損のおそれがあるなどとして反対していた。

戦車の公道自走は2005年から昨年まで6年連続で行われ、多い年で90式戦車(重量約50ト)9両が鹿追一帯広間約45キロを往復した。今年は行事に参加する同戦車12両をすべて民間のトレーラーで輸送する。同旅団広報班は自走をやめる理由について「輸送力が確保できたため」と説明する。東日本大震災の災害派遣の影響で、計画していた事業を実施しておらず、輸送役務を委託する予算が確保できたという。

同旅団創立7周年・帯広駐屯地創設60周年記念行事は9月3日に同駐屯地で開かれる。

実施年度	実施日		参加戦車・回収車
2005	9月12日	往路	74式4両・90式4両・回収車1両
	9月19日	復路	74式4両・90式4両・回収車1両
2006	8月31日	往路	90式9両・90式回収車1両
	9月13日	復路	90式9両・90式回収車1両
2007	8月30日	往路	90式5両・90式回収車1両
	9月11日	復路	90式5両・90式回収車1両
2008	9月2日	往路	90式5両・90式回収車1両
	9月10日	復路	90式5両・90式回収車1両
2009	9月1日	往路	90式3両・90式回収車1両
	9月9日	復路	90式3両・90式回収車1両
2010	10月8日	往路	90式3両・90式回収車1両
	11月1日	復路	90式3両・90式回収車1両
2011	実施しない		なし

今年の例に倣って、今後とも実施させないように取り組みを強めたい。

4 十勝港(広尾町)の軍事利用

十勝19市町村の主な自衛隊関連施設は、帯広市(帯広駐屯地・帯広演習場・十勝飛行場)、足寄町(弾薬庫)、池田町(渡河訓練場)、幕別町(稲士別基本射撃訓練場)、鹿追町(鹿追駐屯地・然別演習場)、大樹町(浜大樹上陸訓練場)、上士幌町(隊員宿泊所)。

近年、その他の民間港、民有地が軍事利用されることが頻繁に起こっている。

十勝沿岸での掃海訓練参加の掃海艇などがしばしば入港。浜大樹上陸訓練で天候や波の状態で使用出来ない時に港の使用が検討されたこともある。2007年南方転地訓練で第5旅団第27普通科連隊(釧路)が本州への移動で使用。2008年海自艦艇入港し一般公開。

昨年2010年7月、海上自衛隊護衛艦「ひゅうが」(2009年就役・14,000t/全長197m/海上自衛隊最大の護衛艦・別名ヘリ空母)と「あまぎり」(2001年就役・3,500t/全長137m)が同時入港し一般公開された。目的は「広報活動」。地元広尾町では自衛隊協力会・商工会と「歓迎

実行委員会」を結成、広尾町は 75,000 円支出した。第 5 旅団は地元紙「十勝毎日新聞」に折り込みチラシを入れて大宣伝。十勝バスはバスツアーを企画。当日、第 4 埠頭では、護衛艦の公開だけでなく航空自衛隊(東千歳)の地对空誘導弾「パトリオット」一式を展示公開し、三軍の大宣伝の場となった。報道によると、町民など約 1.7 万人が参加した。

今年も 7 月、海上自衛隊護衛艦「はるさめ」(排水量 4550 トン)の一般公開が行なわれた。「はるさめ」は、ソマリア沖での海賊対策に参加した。2 日間で約 4,000 人が訪れた。

5 基地調査(北十勝)

昨年 11 月、幕別町(射撃訓練場)、池田町(渡河訓練場)、足寄町(弾薬支処・宿舎)を回ったが、今年は鹿追町(鹿追駐屯地・然別演習場)、上士幌町(糠平山荘)を見て回った。

鹿追駐屯地のゲート付近は、車両の進入を阻止するための小さなバリケードが設けられていた。また、門の警戒にあたっている自衛官は、「内部の写真撮影はしないで下さい」と言い、肩に銃を担いで出てきた。バリケード設置や銃の携行について、「昨年上の方から指示があった」と言っていた。

然別演習場は、入口も周辺も整備されていた。南に面する道路には、金網のフェンスがあり、通行出来ないようになっていた。しかし、廠舎付近は雑草が生い茂っていた。



糠平温泉郷から少し離れたところに、「糠平山荘」があった。玄関前にスキー架けがあり、窓の外から内部の 2 段ベッドの一部が見えた。冬の訓練に使用されるようだ。

一通り、十勝の軍事基地を見て回ったことになる。なんとかパンフレット「十勝の軍事基地」の原稿の土台は出来た。

※ 別紙(12 日持込資料)

◇ 資料 1: 「国有提供施設等所在市町村交付金資料」(平成 17 年から 22 年)

◇ 資料 2: 「防衛庁所管補助事業(H18~H22)一覧表